

RPSJ NETWORK

Railway Preservation Society of Japan

日本鉄道保存協会 会報
1997 JULY 第3号

平成9年度総会

8月28日(木)・29日(金)に北海道三笠市で開催



毎年1回、加盟団体の情報交換と親睦を深めるため開催している総会の日どりが決定いたしました。今年は北海道三笠市の「三笠鉄道記念館」にて開催いたします。同記念館はで六輪連結Cタンク機関車S304号を動態保存をしており、またクロフォード公園には特急おおぞらがフル編成で展示されています。

総会には毎年、40名ほどの参加者がありパネルディスカッション形式で行われている意見交換会では、毎回時間足りなくなるほど熱心な討議が交わされます。また、宿での懇親会も年々盛り上がり、夜が更けるまで話がつきないといった感じです。ぜひ、多数の皆さまのご参加をお待ちしています。詳細は、別紙総会のご案内をご覧ください。

三笠市 (三笠鉄道記念館)

商工観光課商工観光係 坂 保徳

近況報告

1. 平成9年度 三笠鉄道村 SL304 号運行計画について

〔運行月日〕

5月 24・25・31

6月 1・7・8・14・15・21・22・28・29

7月 5・6・12・13・19・20・21・26・
27・29・30

8月 1・2・3・5・6・7・8・9・10・12・
13・14・15・16・17・19・20・21・22・
23・24・30・31

9月 6・7・13・14・15・20・21・23・
27・28

10月 4・5・10・11・12・18・19・25・26

〔通行時間〕

土曜 12:00~16:00 30分ごと

日曜 10:00~16:00 30分ごと

※ただし、12:00運行後13:00までは

昼休み

2. 近況報告

2月 冬のSL運行

全国各地からつめかけた鉄道ファンで賑わいました。

4月 三笠鉄道村に DC250 - 8t 電気機関車来る

8t電気機関車は、昭和23年頃から59年まで約36年間、北海道釧路の太平洋炭坑の原炭ポケットから選炭工場の間(往復約4km)を20分で運行しておりました。使用の目的は坑内より採掘した石炭を商品化するための工場(粒度や発熱度などの調整)に運炭することです。

この8t電気機関車の内の2台が三笠鉄道村にやってきました。1台は昭和23年製、もう1台は昭和35年製で、諸元は以下のとおりとなっています。

全長(連結部除く) 4,870mm(28年製) 3,600mm(35年製)

車体幅 1,200mm

車体高 3,000mm

車体高 4,200mm(パンタタタミ)

車輪径 860mm

車軸間隔 1,400mm

5月 展示車両塗装整備

キハ2733 スエ30-41 特急おおぞら

排雪モーターカー21-TMC100BS系

7月 第10回北海道軌道自転車レース大会

廃線となった幌内線2.5kmを使ったレースで、出場チーム数30チーム、過去最高記録の6分49秒がでました。

8月 三笠鉄道村サマーフェスティバル96開催

東海旅客鉄道株式会社

省線電車（モハ1形）の復元について

車両部 天野満宏



見事に復元されたモハ1035号

JR東海では、大正11年に製作された木製の省線電車「モハ1035号」を産業文化財として弊社名古屋工場にて復元（平成9年2月完成）し、文化活動のひとつとして大切に保管すると共に歴史を物語るものとして一般の方々にも公開してきました。

この車両は、主に東京圏の通勤電車として活躍し、国電発達史上極めて重要なものと位置づけられ、近代電車の基本型であり鉄道史に残る数少ない木製電車と言えます。

弊社では、形式1（通称：モハ1）として現存する唯一の車両であること、及び飯田線（旧三信鉄道）で運行されていたことに鑑みて、平成6年秋にこの貴重な車両を大井川鉄道㈱より購入し、静態展示を前提として昭和4～5年当時の姿に復元しました。なお、5月10日には、産業考古学会より当時の姿に復元でき

たことが評価され「推薦産業遺産」として認定されました。

現在は、弊社の伊那松島運輸区構内（長野県上伊那郡箕輪町）にて保管しており、7月下旬には3回目の一般公開を予定していますので、一度、ご覧戴ければ幸いです。

主な復元内容

- (1)簡易鋼製車体を木製車体に再現
- (2)車体中央に出入口を、前部および後部に貫通開戸を再現
- (3)二重屋根に明かり窓を再現
- (4)客室内部をより製作時に近い姿に再現
- (5)運転席を運転室中央部に再現
- (6)床下機器等の部分的な補修・整備



木製車のぬくもりがたつたわる内部

上松町

産業観光課商工観光係主事 見浦 崇

自然体験と森林のふれあい

トムソーヤクラブ村 木曾・上松

夏の間、赤沢自然休養林で開催される自然体験イベント。森林浴をはじめ、森林鉄道の乗車、丸太切り体験、木工教室、川遊び、魚のつかみどりなどが体験できます。

開催期間 7月26日(土)～8月24日(日)の毎日

- ・森林鉄道乗車ご希望の方は案内所で予約の上、整理券をもらって下さい。
- ・乗車にはボールドウィンパスが必要となります。

大人 1200円 子供 900円

時刻表 (森林鉄道記念館前発)

9:00	9:30	10:00	10:30	11:00	11:30
12:00	12:30	13:00	13:30		
14:00	14:30	15:00	15:30		

赤沢自然休養林 (森林浴発祥の地)

平均樹齢300年の天然ひのきの森で、四季を通して森林浴を楽しめる赤沢自然休養林は、秋田スギ、青森ヒバと並ぶ日本三大美林の一つとして、「21世紀に残したい日本の自然100選」にも選ばれた所です。昭和57年には日本で最初に森林浴が実施された森林浴発祥の地としても知られています。



九州旅客鉄道株式会社

広報課 荒波 篤

SLあそBOY・門司レトロ地区をアピール

3月9日、北九州市の門司地区で門司港レトロのオープン2周年を記念した門司港レトロフェスタ Part1「門司港まつり」が開催され、そのメインイベントとしてSLあそBOYを門司港～門司駅間で2往復運転しました。

SLが北九州市で走るのは8年ぶりということもあってか、この運転に当たって乗車の募集をしたところ600人の募集に対して約1万4300人の応募があり、事務局にとっては嬉しい悲鳴となりました。また、当日は展示した門司港駅や沿線に久しぶりに走るSLを一目見ようと約6万人が詰めかけ、レトロ地区門司のアピールに大きく貢献することができました。

このイベント後は、3月22日から土・日・祝・夏休みなど11月末まで豊肥本線で運転します。九州に来られたら是非体験して下さい。



門司～門司港間を走る「レトロ号」(あそBOY)

運行開始10周年を迎え、各種イベントを開催

トラストレインは、おかげさまで平成9年7月25日に運行開始10周年を迎えます。今年はその記念として、いくつかのイベントを予定しています。

すでに、3月23日(土)に大井川鉄道との共催で、SL保存ボランティア教室を開催しました。このイベントは広く一般の方にも歴史的車両の保存に理解をいただくため、トラストレインのC12形蒸気機関車及びスハフ43形客車等の清掃を実際に体験していただくというものです。当日は全国から約40名の親子連れや鉄道ファンが参加し、2班に分かれて運転前のSLのプレートやロッド磨き、客車の清掃などを行いました。参加された方からは、間近でSLを見られSLの仕組みがわかった、静態では味わえない活きたSLに触れることができたなどの感想をいただき、たいへん好評でした。



また、5月25日(日)にはパソコン通信ネットワークのニフティサーブ鉄道フォーラムの10周年とトラストレイン運行10周年を記念し、特製ヘッドマークを付けてトラストレインを運転しました。運転前には、約130名の参加者によるC12形蒸気機関車とスハフ43形客車等の清掃ボランティアが行われました。各自で持参した雑巾で日頃、手の行き届かないSLの配管磨き及び客車の天井や扇風機などの清掃を入念に行っていました。その後、きれいになったトラストレインに乗車し、千頭までの旅を楽しんでいただきましたが、車内でスハフ43形客車のカーテン取り替えのための募金をお願いしたところ、60万円もの募金が集まりました。これにより、おかげさまで昨年開始したカーテン募金は、残りあと数口となり、今秋頃には取り替え工事を行うことができそうです。

なお、7月19日の運転日以降の運転日は10周年記念のヘッドマークをつけて走る予定です。また、10月の運転日に記念イベントを計画中です。

1号機関車が重要文化財に指定

1871年にイギリスから輸入された1号機関車が重要文化財に指定されました。これまで鉄道車両は歴史・文化的価値が十分に認められていたにもかかわらず、指定の対象外となっていただけに、まさに快挙といえます。文化庁も近代遺産の全国調査を推進しており、今後も指定物件が増えることを期待します。

